

令和7年度 第1回学校運営協議会 記録

1 期日 令和7年6月 11 日(水)午前 10 時から 12 時まで

2 会場 静岡県立浜松視覚特別支援学校 会議室

3 参加者

学校運営協議会委員

○静岡大学 准教授 A 氏

○一般企業 代表取締役 B氏

○前浜松市視覚障害者福祉協会会長(本校卒業生) C 氏

○NPO 法人 就労継続支援施設 代表理事 D 氏

○視能訓練士 E 氏

○地区自治会長 F 氏

○PTA会長 G 氏

本校教職員

○校長、副校長、事務長、幼小小学部主事、中学部主事、高等部主事、専攻科主任、寮務主任、教務主任、生徒指導課長

4 内容

・開会（日程説明、自己紹介、委員の委嘱）

・活動の様子紹介(校内弁論大会)

全体会

(1) 令和7年度学校経営計画

(2) 学校課題解決に向けて

「防災教育等に係る地域資源の活用と周知について」

(3) 意見交換

・閉会

全体会

○学校運営協議会について:副校長より

コミュニティ・スクールは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と連携した教育活動の推進を図り、よりよい学校づくりを進めていくことを目的としている。そのためたくさんのご意見をいただきたい。

(1) 令和7年度学校経営計画 について:校長説明

学校教育目標、目指す学校像、具体的な取り組み、成果目標、地域と連携した教育活動の推進等の説明

<質問、意見、感想等>

(F 氏):学校をアピールするための内容をホームページ、Instagram、YouTube に既に公開されているか。

(校長)Instagramは現在検討中だが、ホームページ、YouTube にはアップをしている。

(E 氏)浜松視覚に転入、入学してくる幼児児童生徒が浜松視覚を選んできてほしい、浜松視覚を頼ってきてほしいという想いを強く感じた。そのためには、『卒業した後には豊かな働ける場所がある』という未来が描かれているとよい。しかし卒業生と話す機会があるが、たくさんの悩みを抱え働いている。特に気になるのが、ロービジョンの方が抱えている悩みである。自分についての説明が上手くできない(見え方、また何ができて、何が苦手なのか)。ロービジョンの方の見え方は各個人によって異なるため、理解

されにくい。個人開業以外の職場へ進むとき、学校から職場への説明があるとよい。また生徒本人には国家試験に合格し技術を身に着けたが、その後、社会の中でより良く生きていくための更なるスキルアップのための手段や方法を伝えてあげるとよいかと思う。

(D 氏) 同感である。アフターフォローも大切であるし、将来どんな未来が待っているか考え、学生時代に身に着けておくのがよい。

(2) 学校課題解決に向けて

①防災教育等に係る地域資源の活用と周知について

生徒指導課長から今年度の防災教育等についての計画、協力依頼について説明

・学校運営協議会委員からの質問、意見、感想等

(F 氏): 9月に浜松視覚で予定している地域の人、保護者も含めた防災体験の内容について教えてほしい。

(生徒指導課長) ①炊き出し体験(日本赤十字社の協力を得て)②非常食試食会③マンホールトイレ、簡易トイレ利用体験(昨年度の運営協議会でのご意見から計画)

(D 氏) 我が事業所もそうだが、災害時には地域の人たちからのサポートも大切になってくる。そのためには日ごろから地域の人たちに本校の幼児児童生徒について、知っておいてもらうことが大切である。サポートしてもらうための、日ごろからの取り組みも考えておいた方がいい。

②浜松視覚を多くの方に知ってもらい、本校で学んでもらうための発信について

(D 氏) 前述の意見と重複するところもあるが、進路に関しては高等部専攻科についてはイメージがわく。中学部、高等部普通科を卒業した後の進路についてイメージがわからない。本人はもちろんであるが、保護者の方も浜松視覚に通うのがいいか、地域の学校に通うのがいいか迷い、不安であるかと思う。卒業後がイメージできるような、ホームページ等で卒業生の進路の紹介があるとよい。

(E 氏) 現在困っているご本人への発信も大切であるが、その方たちが通っている学校に発信していくことも大切である。

この学校を選んできてもらうためには、そういう方たちに、こういう見え方の人にはこういう学び方が必要、大切であるといったこと。この学校に来れば専門の先生たちから学べることができるという魅力的な発信ができるとよい。

今は保護者や学校の方からの問い合わせがあった時に、相談を行うという一方通行になっている。相談しようか迷っている保護者の方にとっては電話をかけるのも勇気がいるだろう。そのためニーズがあると思われる相手のところには、こちらから出向いていくことが大切である。

(B 氏) 企業の立場からお話させてもらおうと、我が社の理念は大家族制。社員の家族は、また家族。社員も含めその家族も大切にしたいという思っている。辞める社員はいない。また自分の会社を選んで来てもらうためには、企業として何を大切にするか発信していく必要がある。家族を大切にすることもそうだが、人として成長していけることも大切。我が社に将来を託せるような、自分の将来が見えるように思ってもらえる会社運営。「人間力」を備えた魅力ある人材を育成に取り組んでいる。

地域にも貢献していきたいと考える。学校運営に協力したい。とにかく言ってくれば協力できることは手伝いたいと考えている。

(A 氏) 今の時代は偏差値で大学を選ぶのではなく、何を学びたいかで学校を選ぶ時代である。ホームページを充実させて大学で学ぶ魅力を発信していきたいと考えている。

地域との連携も大切である。大学の生徒が天竜浜名湖鉄道、特別支援学校と連携した取り組みを行っている。地域の特別支援学校の生徒が書いた文字。書体がとてもユニークで魅力があるので、その文字をフォントにしたり、天竜浜名湖鉄道の駅名などの看板に使われていた文字をデータ化する取り組み

を行ったりして、それを SNS で発信している。

本校を希望する学生の中に、見えづらさを持つ学生も出てくるかもしれない。その学生のための環境整備が今は整っていない。センター的役割を持つ視覚特別支援学校と連携を取り、希望する学生達に必要な支援や情報を提供できるようにしていきたい。

(G 氏) 子供を持つ立場として、進路を考える時に、全く情報が無いため不安である。国立の支援学校を選んでいいのか、地域の県立の支援学校を進路に選んでいいのか、卒業した後の進路が見えないので迷う。何を根拠に進路選択をすべきなのか。知らない世界に進ませるのは怖い。卒業生の了解を得るなどして、卒業後の様子などの情報をホームページなどに載せて発信してほしい。

(C 氏) 先に話題にもなった内容だが、国家試験に合格して就職することはできたが、苦労も多かった。卒業後の困ったことも知って、何に困ったのか、学生時代に何を学んでいくのかを知らせていくことも大切かと思う。国家試験合格のための勉強だけでなく、社会人として、社会の中で生活していくための指導もしてほしい。

閉会

お礼の言葉: 校長より

たくさんのためになるお話を聞くことができた。とても充実した時間だった。運営協議会だけにとどまらず、この様な話をたくさん聞かせてほしい。